



道路分野

高校生との協働による道路インフラメンテナンスの取組

取組概要

岩手県が道路法に基づき実施する橋梁の定期点検及び健全性の診断(以下「橋梁点検」という。)について、県内の土木系学科の高校生と協働で取り組むことにより、高校生に道路インフラメンテナンスの必要性や重要性の理解を深めてもらうとともに、自らが実施した点検が県民の安全な暮らしを支えるという土木の魅力を感じてもらい、将来のインフラメンテナンスの担い手の確保・育成を推進するものである。

併せて、本取組に関する広報や報道等を通じて、県民にインフラメンテナンスの必要性や重要性等を広く情報発信するものである。

受賞理由

高校生自らが橋梁の点検調書を取りまとめる点が画期的であり、年々対象高校を増やしている。継続的に実施されており、将来の担い手不足の解消に寄与すること、通常授業では学べない内容であり学校教育の向上に寄与すること、取組を通じて建設業界への就職が増えていることが評価された。

取組のポイント

高校生自らが、メンテナンスサイクルの流れに沿って、県及び建設コンサルタントの指導を受けながら「岩手県道路橋定期点検要領」に基づき橋梁点検を行うものである。

高校生との協働による橋梁点検の成果は、点検調書として取りまとめ、報告会の場で高校生から県に提出・説明していただくことにより、岩手県道路橋長寿命化修繕計画や補修設計等の基礎資料として県政に活かされる。

点検調書には、点検を実施した生徒の名前も記載され、橋梁とともに残り続けることから、自ら点検した橋梁への愛護意識を育むことも期待している。

受賞者について



受賞者

岩手県 県土整備部 道路環境課
菅原 博秋 / 藤島 謙 / 亀田 健一
熊谷 利明 / 平賀 柁人 / 川村 匡永

コメント

このたびは、国土交通大臣賞受賞の栄誉を賜り、誠に光栄に存じます。また、本取組に御協力いただいた高校関係者や建設コンサルタントの皆様にも心から感謝申し上げます。

今回の受賞を励みに、未来世代によりよいインフラを引き継ぐため、インフラを「守る」、担い手を「育む」、メンテナンスの必要性等を「伝える」という本取組等を通じ、持続可能なインフラメンテナンスの実現に向け、引き続き取り組んでいきます。

団体概要

本県は、北海道に次ぐ面積を有し、東日本大震災津波の復興支援道路として整備した宮古盛岡横断道路(一般国道106号)等255路線約4,200kmの道路や約2,800橋の橋梁等のインフラを管理しています。

県民の生活を支えるインフラを良好な状態で次世代に引き継ぐため、長寿命化修繕計画に基づく計画的な修繕等を推進するとともに、本取組をはじめとする県民との協働による維持管理などに取り組んでいます。

問い合わせ先

岩手県 県土整備部 道路環境課
維持グループ
019-629-5878 / AG0004@pref.iwate.jp